

おお大勝利

平成 29 年度山東サッカー一部報第 16 号 (1 月 24 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

新年明けましておめでとうございます

皆さま、遅ればせながら、新年明けましておめでとうございます。今年も山東サッカー部並びにこの部報よろしくお願い致します。

昨年は、2年ぶりに県リーグ1部を戦い、前期こそ2勝3敗2分けの残留ペースで折り返したものの、後半に全敗、しかも大差負けでの全敗により、リーグ最下位となり、降格決定。Y1に注目してくださった多くの人々の予想を裏切る活躍は、ありませんでした。同様に、春の関東遠征を初めて無敗で乗り切り、久々にチームの仕上がりに手ごたえを感じながら臨んだ県総体も、昨年度同様に準々決勝で敗退し、ベスト8の壁を崩せず。多くに人から、「惜しかったね」「山東の戦い、素晴らしかったよ」と試合内容に関してお褒めの言葉を頂いたのが、せめてもの救い。**監督が違っていたら、もっと上まで行けたかもしれない。そう思えるチームに、成長してくれた。**昨年度のリーグ後半の不安定な戦いからすれば、**本当に選手は伸びてくれた、と感慨深い。**ワタルとかネイマールとか、アオキなど、試合になかなか出られない選手も一生懸命練習し、良い雰囲気での部活を作ってくれた。

今年度も、そうした先輩学年と同様、冬期間遠征に行かず（正月の埼玉遠征は除く）、山形で地道に練習しています！ 冬場の活動の報告は後に譲りますが、**来年度も、リーグ後半戦の山東の姿とは全く違った、成長した姿をお見せしますので、ご期待ください！！**

とまあ、このように書きましたが、これを書いている私が来年山東に残留する保証はどこにもない。もちろん山東サッカー一部は「永遠に不滅」ですし、私もOBの一人として山東サッカー一部を応援し続けることに変わりありません。が、顧問はいずれ異動する定めにある。4年前に部報新年号でこう書きました。

前任校は進学校とは対極にあるような学校であり、サッカー部も半分が初心者でしたが、それぞれにやり甲斐があり、異動は絶対にしたくない中、異動が命じられ、渋々山東へ赴任いた、という思い出があります。そんな重い気持ちで赴任した山東も、「住めば都」。まだまだ居座る野心はあるのですが・・・9年目に突入できますでしょうか？**できなかったら、この部報は3月で終了**ということになりますよ～。まあ、**勝手な予測で言いますと「75%残留」**でございます。

それを受け、3年前の新年号でこう書きました。

昨年の残留確率75%というのも全くあてずっぽうですが、その数字を前提に、あと10年残留する可能性はない（残留確率が0%になる）と考えてみたときに、今後1年で7%ずつ残留確率が減っていく、とまあ大雑把に言えるのではないのでしょうか。とい

うことは、**来年度の残留確率は 68%**となります。確率的には 50%を超えているので残留する可能性の方が高いと言えますが、パチンコ等の愛好者の方ならその数字がいかに信頼おけないものか、よくおわかりかと思えます・・・。

この「計算式」を前提にすると、**今年度の残留確率は 54%**でしたので、**次年度平成 30 年度の残留確率は・・・47%**となります。**とうとうこの残留予想が 50%を下回ってしまいました**。当たり前ですが、1 年 1 年が勝負ということですね。残留を前提に、頑張っていきたいと思います！

充実の正月埼玉遠征・第1回校内合宿を終えて

1 月 3 日～5 日、**このたびで 6 年目となる埼玉遠征**を行ってきました。それ以前は、私が妻の実家の埼玉で年末年始を過ごすことから、顧問の私だけ選手権大会を観戦に行き、ちょっとしたレポートをこの部報に書いておりました。すると「先生だけでなく子どもたちにも全国レベルを体験させてほしい」「自分たちも選手権観たい」との保護者・選手の希望があることが分かってきました。ただ、選手権を視察することは簡単ですが、「わざわざ関東まで行って試合を観るだけではな～（合わせて練習試合を企画できれば行ってもいいんだが）」との思いを持っていたところ、とある大会で越谷西高校のスタッフと一緒にになり、越谷西さんにお世話になる形での埼玉遠征が実現した¹。4 年目までは越谷西さんの合宿所にお世話になっていましたが、昨年から、他校生徒の合宿所利用が厳しくなったという事情により、民間の宿泊施設に泊まって実施しております。

ただし**現在 1・2 年選手が 21 名**と少ないため、OB3 名ほど（選手役での）ヘルプをお願いしました。すると立候補者 4 名。折角ですからその 4 名全員の力を借りて遠征してきました。4 名の OB とは、**新潟大学 2 年太一君（山東 66 回卒 以下全員同期）、東北大学 1 年樹君、上智大学 1 年克君、慶応大学 1 年太郎君**。もちろん彼らには B 戦に出場してもらいましたが、ボランチ・CB というチームの主軸のポジションを担ってもらい、B チームのチーム力を上げてくれました。

まず、3 日 6 時に出発²し、浦和駒場スタジアムに直行。選手権の 3 回戦を観戦し全国レベルのプレーを肌で感じた後、越谷西高校へ行きすぐ越西さんと練習試合。開始 30 秒で失点し、その後もずるずると失点を重ねる 1 本目。**越西さんに相手してもらった過去の試合の中で、最低レベルの試合をやってしまう**。2 本目以降多少試合内容が上向きましたが、不甲斐ない今年のチーム、そして、注 2 で書いていますように、**だらしない生活態度がサッカーに表れた今年のチーム**を象徴する初日となりました。

しかし、二日目の上尾東高校さん・越西さんとの練習試合（越西 G）を経て、三日目岩槻高校さん（大宮工業 G）との練習試合では、**一人ひとりの判断のスピードが上がり、顧問も驚く変化を見せる**。OB がミーティングに参加し、アドバイスをしてくれたからでしょうか³。正直、公式戦・練習試合を含め、**この代で初めて試合の中身（彼らのプレー）が面白いと感じ**

¹ その過程では、越谷西の監督さんと旧知の仲であった**東海大山形五十嵐先生**にお世話になりました。

² 今年、遅刻者がおり、出発が 6:30 となるという前代未聞の事件が起きました。大反省してもらいたいところです。

³ 私が 4 名の中のとある OB（タ〇ルくん）にそのように言うと、図々しくも「タ〇ル効果ですね」と来たもんだ。OB の力が大きかったにせよ、ミーティングには 4 人全員参加したんだから、自分だけの手柄にするのはおかしいだろ、それ絶対部報に書くからな、なんて会話がありました。

ました⁴。2泊3日でこれだけ変化するなんて、うれしい誤算です。二日目朝、生活態度を含め1時間くらい説教したからでしょうか。説教してサッカーの内容が好転するなら、こんな簡単なことはありませんね。何が原因・きっかけかは分かりませんが、**選手たちが「このままでは俺らヤバイ」と危機感を本気で持ち、チームを変えて行こうと話合った結果であることは間違いない**でしょう。こういう変化があるから、外に出るのは良いものです。

OBの皆さん、上尾東高校さん、岩槻高校さん、グラウンドを貸してくださった大宮工業高校さん、そして何より越谷西高校さん、ありがとうございました。

そして、**1/19~21に第1回の校内合宿**を行いました。朝5:00~8:00、夜19:00~22:00の二部練習。昼間は体幹トレーニング。この時間帯は、体育館が空いているのです。**マネージャーは、朝晩とおにぎりを握り、朝練夜練の最中に選手がおにぎりをほおぼる**。ちなみに、そのおにぎりですわられたお米は、**山形社交界のプリンスであらせられる山形東高校サッカー後援会事務局長○藤さん(○和熱処理株式会社社長⁵)**が下さった「光の栖(すみか)」30kg⁶。○藤さん、ありがとうございます!! 土曜日の体幹トレーニングの時には、**せりかわ整骨院の芹川先生**が来て下さり、選手の体の状態を診て頂きました。芹川さん、ありがとうございました!!⁷ その合宿の練習では、例年の通り、ドリブルゲームにて、自信を持ってボールを保持する力を養う。昨年・一昨年と比べ、スキルが低く、まだまだではありますが、継続してトレーニングすれば、絶対に向上する。チームとして来春勝つことが目標ですが、そのためには一人ひとりがサッカーにのめり込むこと、そしてサッカー選手として向上することが絶対条件。年末**小学生にサッカーを指導している友人**と話をしたのですが、改めて**目の前にいる一人ひとりの選手を大切に育てるという育成の原点**を再確認させてもらった(チームとして結果を残すことばかり考えている自分の姿勢を改めて反省させられた)。この純な気持ちを、今後の選手育成に活かしていきたい。

第2回は2/2~4、第3回は2/16~18と実施します。**来春の選手たちの成長した姿、乞うご期待!!**

1年生大会1回戦であっけなく散る

相当前の話ですがご報告します。11月25日(土)村山地区1年生大会が開催され、山東は山本学園と対戦。1年生が10名しかおらず、その中の1名は**サッカー好きではあるものの喘息気味の進入部員マスコッチ!**なので、9人で戦うことになりそう。そんな懸念から、1年生は他の部の部員2名に声をかけ、何とか11名を揃えた。一人は**夏前にサッカー部を辞めバドミントン部に移ったシモーヌ**。もう一人は**中学時代山形FCでサッカーをしていたもの**の高校ではバドミントン部に入った**ヨシキ**。村山地区1年生大会は、そうした人材の外注も

⁴ 顧問が一観戦者かのように、試合が面白い or not などと言うのはおかしいかもしれませんが、選手たちも初めて面白いと思ったのではないのでしょうか。やってる選手が楽しんでいて観ている方も楽しいものです。

⁵ 名前は明かさないでほしいというご本人の意向がありましたので、このように伏字を用いました。

⁶ もちろん、選手21名しかいない山東が、朝晩の補食で30kgの米を食べることはできませんので、第2回、第3回の合宿すべてで食べきりたいと思います。

⁷ 芹川さんからは、スポーツドリンクの差し入れを頂戴しました。重ねて御礼申し上げます。

許される、レギュレーションが厳しくない大会。

試合は、シモーヌ・ヨシキの活躍もあり、押し気味に進めるものの、決め手を欠く。この試合はモノにしなければだめだ、という試合展開ながら、やはり山東、力がない。すると、カウンターから簡単に失点してしまい、その後、相手ゴールに迫るもそのまま試合終了。押し気味に試合を進めるも本当の力は無いチームが陥りがちな敗戦を喫しました。**1年～3年の保護者の皆様や2年生部員の大声援がありました、残念。**

1年生大会は現3年生も情けない敗戦でしたからね（現2年生は当然として）。まあ1年生もこれからでしょう。

ともかく、**シモーヌ・ヨシキ、今回はありがとう！ 来春もサッカー場で会おう！？**

保護者の皆様、応援ありがとうございました！！

納会終了 三年生受験頑張り！

12月5日（火）**第36回**山東サッカー部納会が恒例の中島商店にて行われました。この企画、**マネージャーが作成した一年間の公式記録集**を片手に、OB会がふるまってくださるすき焼き鍋を囲みながら、一年のまとめをするもので、今年で36回を迎えました。後援会からは清野名誉会長・岸会長はじめ多くのOBが集まって下さり、選手が少ない分、会を盛り上げて下さいました。

まず会長から今年一年の悔しさ嬉しさを総括するお話と3年生への受験の激励のあと、5名の優秀選手賞を発表し表彰。その後、乾杯（その5名と授賞理由は別紙の通り）。さまざまな作り方がすき焼きにはあろうかと思いますが、現役生は思い思いの「鍋」を作っておりました。途中、OBの方々から激励の一言を頂戴し、2年生キャプテンの感謝の言葉があった後は、3年生の決意の言葉。力強い宣言と心配になる宣言と両方ありましたが、**納会で蓄えたすき焼きパワーをぜひ勉強で発揮し、志望の実現に向けて頑張りたい**と思いました。

二次会は、これまた恒例の寿屋にて。おそば屋さんで飲むそば焼酎（焼酎のそば湯割り）は格別で、毎年楽しみにしているのですが、今年も堪能させていただきました。私も、センター指導に向けた英気を頂きました。ありがとうございました。

羽柴寛泰

中学時代から（具体的には中3夏から）山東の練習に顔を出し始めた強心臓の選手。私立などでは、入学が保障されており、こういうことはあるだろうが、厳しい入試を経た後じゃないと入学できない本校では珍しい。というか、通常はあり得ない。この、あり得ないことを実行した選手。そして、昨年の由斗に続き、夏を経て選手権まで唯一残ってくれた選手。すでに苗場に4回行ったことになる。選手としては、フィジカルの状態がなかなか上がりず、高校のレベルで戦うだけのタフさに欠け、伸び悩んだが、生来の前向きな姿勢により、最終的には頼りがいのあるCBに育ってくれた。グラウンドマネージャーとして練習を指揮するとともに、試合では叱咤激励の声を出し続け、ピッチ内外でリーダーシップを発揮した功績は大きい。ぜひ現役合格し、選手権に出ても大学には受かることを証明して欲しい。将来は山形東の部顧問に就任するように。

菅原大誠

カンタ、ベジとともにモンテディオ JrYouth 村山出身で、入部当初から期待を集めた選手。寡黙なタイプで華奢、少食キャラと、サッカー選手としての野性味が欠けている印象が当初あった。足も速くないため、(中学までの本職である)DFでの起用は難しいかと判断し、上の学年のチームではMFをやっていた。そして、360度敵に囲まれる可能性のあるMFへの適応に苦しんだ印象があり、上の学年でレギュラーに定着していたとは言い難かった。最上級学年になり、CBがいないチーム事情のため彼に賭ける気持ちでCBを任せたら、安定したフィード・判断の良い対人で、「やはり彼の持ち場はここか」と心底思わされたし、CBの適性をしっかり見抜けなかった自らの眼力の低さを痛感せずにはいられなかった。1・2年次のボランチ等への挑戦がCBとしての伸びにつながったと解するべきか、もっと早くからCBとしての修行を積みませるべきだったのか、今更ながら指導者として自問自答している。学校で制服を着た姿を見ると「細いな〜、弱そう」と思うのだが、最終ラインでは強さもあり、そのギャップが非常に印象深い選手であった。

安達亮介

この学年で最も伸びた選手と言っていいのではないだろうか。当初、そこそこのスキルは感じられ、上の学年のチームにも出場することもあったが、強さ・速さ・高さの欠如を補うほどの抜群のスキルとまでは言えず、レギュラーに定着していた訳ではなかった。ただ、素直に指導者の言葉に耳を傾ける謙虚さ（まっすぐ指導者を見つめる目線の強さ!）、自分の課題を自分なりに分析する思考力、そして選手として向上しようとする意欲を持ち合わせており、着実に着実に、選手として伸び続けた。1年から2年または2年から3年にかけてびっくりするほど伸びることはさほど珍しくはないが、彼のようにしっかり2年続けて伸びるのは本当に本当に稀。最終的にはボランチをクレバーにこなし、チームの心臓として機能した。割とヘディングも強く、ボランチとして泥臭い競り合いも厭わなかった。後輩たちは、彼の姿勢を部活動の手本にしてもらいたい。

佐藤海都

U15 世代で県トレセンに入っており、鳴り物入りで入部した選手。層の薄いチームにあって、1年生から右SBでレギュラーを獲得した。しかし、力量は「名前ほどではなく」、新人チームで1年にて本職のボランチを任せられるようになると、寄せられるとすぐ切り替えしをしてボールロストを繰り返し、焦る気持ちがパスをも狂わし、そして守備は体がついていかないといった有様で、トップレベルどころか並みのレベルも疑われる状況だった。しかし、向上心が半端なくあり、選手としてストイックにサッカーに向き合うことのできる選手だったので、必ず伸びると思わせるものがあった。1年冬から始めたフィジカルトレーニングが功を奏し、自分のイメージと体の動きが合致するようになると、2年春からボールコントロールの狂いもなくなり、切り替えしではなくスクリーンを憶えたことでプレーの安定性が増し、また貪欲に相手ボールを刈り取ることができるようになり、存在感あるボランチへと変貌を遂げた。ただ、メンタル的に気負いすぎる点があり、3年次のパフォーマンスは必ずしも本来の彼と言えるものではなかった点が悔やまれる。ぜひ山大医学部に入り、選手として更なる向上を目指して欲しい。

渡辺晴

GK がないチーム事情を考え、1年の途中にFPからGKへのコンバートを決断した。「自分で決断した」と彼は言うが、GKが他にいたら転向していなかっただろうから、チーム事情を考えて行動してくれた訳であり、率直に言って、チームは「助かった」。飛んだり跳ねたり走ったりするフィジカル能力は比較的恵まれていたが、実直すぎる性格ゆえか、発想やプレーに柔らかさ・狡さがなく、伸び悩みを懸念された。特に、(前に/ボールに)出る出ないといったブレイクアウェイの判断に不安定さがあり、敗戦に直結するプレーをするなど悔しい経験を重ねた。最終的に、安定したGKへと成長した、とまでは表現しづらいが、県総体のパフォーマンスは後方からチームを支えたと言えるものであり、勇敢なブレイクアウェイだったと褒め称えたい。サッカー選手として多彩な経歴を持つ選手が揃った「癖のある学年」の主将として、チームを良くまとめた功績も大きい。